

ランチョンセミナー2

11月15日(土) 12:00-13:00 第2会場(2F 中会議室 201B)

共催：シスメックス株式会社

肝疾患診療における血液バイオマーカーとしての M2BPGi と幼若血小板比率の有用性

座長：小野間健介(新潟県立新発田病院 臨床検査科)

演者：石川 達(新潟県済生会 済生会新潟病院 予防医療センター長)

糖鎖マーカーである Mac-2 結合蛋白糖鎖修飾異性体(以下 M2BPGi)は、肝線維化を非侵襲的に評価可能な糖鎖マーカーであり、肝炎や肝癌との関連も報告されている。M2BPGi は肝疾患の予後に関わる因子と考えられるが、肝予備能、栄養状態との関連は充分解析されていない。さらに背景肝疾患によりその Cut Off 値は異なるとされている。

M2BPGi が肝予備能、栄養指標の単一代替マーカーになりうるか当科における背景肝毎の Cut off 値の報告と実臨床における有用性の検討をおこなった。現在、待機的な観血的手技を予定している慢性肝疾患患者の一時的血小板増加に対し、TPO 受容体作動薬(TPORA)が実臨床で使用されている。しかし、本剤の血小板数増加の予測因子については未だ確立されたものはない。幼若血小板比率(IPF)は骨髄の血小板産生能を反映し、骨髄巨核球と相関する。TPORA 投与時に IPF の変動が血小板増加の予測因子となりうるかも検討した。本セミナーでは肝疾患診療における血液バイオマーカーとしての M2BPGi と IPF の有用性を概説させていただく。